

# 體驗の中から

附屬幼稚園

A

B

C

子供が神經質である、根氣がない、亂暴で困るなご、其他種々こうした思はしくない性質は、親ミして實に何よりも氣にかゝり、又多くの親は早くそれをなをし度いご非常な努力をしておられる。子供のこれらの原因は體質なごによるものもあらうし、先天的又は後天的なものであるから、こればかりはそうたやすく一朝一夕にしてなをせるものではない。されば、その子供が自分の思はしくない性質を意識しはじめた頃不幸な思ひをさせぬ様、出来る限りの努力をしたいものである。その一つの實例として私のさゝやかな體驗をこゝに書きつゞつてみよう。

Aは長男であつて若い両親の他に祖父母に非常に可愛がられて育てられて來たのだ、年の二つ違つた弟が一人ゐる、入園當時から一學期の間は他の子供とあまり異つたところもなく、たゞ早生れであるため體も大そう小さい赤ちやんばいごころを多分にもつてゐた。附添の手も早くはなれ、泣きごいふ事が一度もない子供であつた。口數も少

ないし、極めて消極的でお友達もいつまでも出來ず一人で愉快に遊ぶ事の方が多かつた。お家ではお母様ももてあます位の子供だそうだがそんな所は少しもない。一學期の半ば頃からやうやく同じ机のBとCの二人のお友達と遊ぶこゝが出来る様になつたが他の者ミは未だこちらから求め遊ぶこゝは決して無かつた、Bはやはり早生れで體も小さいし、非常に無邪氣な可愛いゝ子供で皆から大そう可愛がられてゐた、しかしB自身は皆がみんな態度で接して來てもそれには全く何のかゝわりもなく、私も安心してゐられる位すなをな子供であつた、たゞ團體生活さいふものがなか／＼出來ないのでいつでも勝手な行動をする事の方が多く又そこが大人からみれば實に可愛いゝごころでもあつた。Cはこの年齢ミしては立派な男兒で體も大きかつた、Bを非常に可愛がつてゐた一人である。AとBは一日一日ミ非常に仲よくなつて行つた、いつも二人で一しよに遊んでゐるし、何をするのも一しよであつた、AにはBの様

な明るさが出て來たし顔もすつこはれくゞしてうれしうであつた。Bも皆から赤ちやん扱ひに可愛がられる様な事もなくなり、皆も競争でBミ遊び度がなる様な事もなくなつた、たゞAは今迄にくらべて急に樂な氣分になつたためかBミ同じ様に、皆ミ一しよの行動をさる場合なごに自分勝手な我儘が出て來た。しかしこの様な事は當然あるべきと思つて何も手をつけずにそのまゝひてゐた、AはBの休むだ場合なごは氣の毒な位元氣がなかつた。AはBミ一しよに他の者ミも遊ぶ様になつたし、一學期の終り頃には、この二人は大そうよくふざける様になつた。本當にうれしいと思つてみてゐるが、急に二人共度を越して眞面目ささいふものがなくなつて行つた、その中ふざけるばかりでなく人がみてるゐるゐないにかゝわらず實に無邪氣なそしで大膽ないたづらのはじまつた、この程度のミこころで夏休みが來てしまつた。長い二ヶ月のお休みの間にきんなになつたか案じながらいよく第二學期のはじまつた。新學期から今まで光線の暗かつた机は明るい方へミ變へ度いと思つたので子供の席も少し變へてみた、AミBミは机だけではなして、席は近くに作つておいた。二人共一學期ミ少しも變るミこころなく、何でも一しよにしてゐるが、ふざけるミこころだけははげしくなる一方であつた。いたづらも時々大きな事をする。特に食事の時なごは他の者には頓着なく二

人だけで實に勝手ないたゞき方をしてゐる。Aももうこの程度になれば大丈夫と思つたので、二學期からはこちらも勞はる氣持は持たずに、はじめから悪い事は悪いミして引締めて行つた、AもBも大そう頭はよい子供であつた。話をきく事や本を讀む事には特に興味を持つてゐた。唱歌や遊戯なごはいつも一しよにしてはゐるが、實に熱のない可笑想な位お役目的にしてゐた。組の中で二人だけがスキップが出来ないのでこれも大きな原因であらう、Aは誰もみてゐないミこころで何度一しよにおけいこしませうミ云ひ出してもいやだミ云つて決して試みない。この頃からスキップに限らず他の事にも大そう負けず嫌ひな強情なミこころがだんくゞ見えて來た。Bは、すなをに根氣よく、皆に手を引かれて練習したためか、運動會の少し前にスキップが出来た様になつた。Bがスキップが出来た日には組中の子供が大よろこびで皆がBのまはりによつて「よく出來たよ」、「よかつたわね」、「ミても上手よ」なごミ云つて大そうよろこんでゐた、私はBがスキップが出来たよろこび以上にあみに殘されたAの事を思つて悲しかつた。次の遊戯の間から自分が心配してゐた通りAは遊戯をしなくなつた、無理に引入れようミする實習生をさめて、Aにはしないで見てゐる様に云つた、その時からしばらく經つて遊戯室の前の暗い狭い廊下のかげでAはたゞ一人でスキップのけいこをし

てゐた、度々誰もゐない所で出来るさいふ自信を持たせてから試みやうミ手をこつてみたが頑こしてきゝ入れずかけ出して行つてしまふ、可哀想な性質だと思つた。しまひには遊戯があるから幼稚園に行かぬミ云ひ出した。小さい者がこんなにもでも考へてゐるのかと思ふミ本當にたまらなくなつた。その日からAさんはもう遊戯はしないでよいさいふこぎを固くお約束した、そしてこの子供の事に關しては又はじめから一しよに出なをさうと思つた。こんな事があつてからBさんも遊ばなくなり又入園當初の様にたつた一人で蟲をさがしたり、草をこつたりしてゐる日が何日がつゞいた。出来るだけ一しよに相手になつて他の子供以上に觸れていく様にした。何度か他の子供の遊びに一しよに入れやうミ試みたがそれはだめであつた、落つてゐる時にはよくお家のお話等もするし又蟲や草のこぎに關してもくわしく話してきかせてくれるが又一方家庭ミ全く同じに自分の性質のありのまゝを幼稚園でも出して皆を困らせる様な事も多くなつて行つた。食事の時さうしても食べず机の下でもぎこでも床の上を方々這ひ廻つて騒ぐ様な事も度々であつた、一度本人がこうしやうミ思つたなら他から何ミ云つたミで決してまげず初めの意志を徹するのである。そして口は固く結んだまゝ一言もきかない。こんな時には落付くまでそのまゝにしておくより他に仕方がない。何か云

へば云ふ程、氣の毒な結果になる。一番困つた事は發熱した時であつた、何ミ云つても検温器を入れる事を承知しないし、横にする事も出來ず、手拭をあてる事もいやがる、お迎への女中さんが來ても長椅子にしつかりかぢりついたまゝ動かない。暴れるのを無理に自動車の中におし込んだ様な始末であつた。この頃Aにはもう一人の可愛い、弟が出來た。仕事にもすつかり興味がなくなり高い戸棚の上に乗つたきり下りて來なかつたり、實習生の背中の上をわたる歩いたりする。度々發作的に山の上ののぼつて芝の中を獸の様にうなりながら四つ這ひにかけ廻る事もある、こんな事をする前には自分の氣に入らない事のあつた時だ。こんな状態が起らぬ様にミ一寸した事にも實に細かく氣をつかつて、はたらきかけねばならなかつた。實に微妙なところに注意しておらねばならないその苦心は、並大抵のもものではなかつた。おだてたり、ほめたりしてもちやんこそれは知つてゐて、その手にはのらない。こうして十一月十二月のたつた二ヶ月ではあつたがAも私も苦しみ通した。お正月を迎へて初めての日、Aはたう／＼見えなかつた。私は前々から考へてゐたこぎがたう／＼來たミ思つた、果してそうであつた。皆が歸つた頃無理に母に手を引かれて來た。別に變つた様子はなかつたが、さうしても幼稚園には行かぬミ皆をずる分手古摺らせたのださうだ。三學期は僅

かな日敷出席したのみで可哀想に中耳炎にかゝりずつこお休みしてしまつた。今迄の種々な發作もこんな大きな病氣の前兆であつたのかと思つた時本當に無心になをそうと思つた事が申譯ないと思つた、この様な結果であつたためこちらの計劃も實行されず、たゞ度々幼稚園の様子をお便りに記してお互に遠ざけぬ様につこめた。年長組もなつた。

お休みの間に種々考へて三十人の子供の中でAが一番近づきやすい子供をあこれ物色しておいた。その一人をDを定め、Aを並んで窺ぎわの明るい所に席を作つておいた。二人の席からはお庭の櫻の花が大そうよく眺められる。Dはその持ち前の性質通りAを年少者として非常に勞つた。年長組になつてからのAは幾分落着いた様に思はれた。皆にせがまれて年長組の第一回の遊戯をした。新入園児が澤山見てゐる。大きい組になつたから一しよにしませうなぎといふ約束はかへつてAにこつてよくないと思つたので何も云はずにはじめた。しかし若しやいふ期待を持つてゐるたがだめだつた、たゞ遊戯をみる態度は實に神妙で確かに今迄とは違つてゐた。自分自身が皆の中に入る機会をさがしてゐるが、それを行動に移すことがなかく出来ず戦つてゐるのだといふ事がよく分つた。こうなれば大丈夫だと思つたが、次の時間も皆の中に入る事を誘はないで、知らぬ顔をしてゐた。今日は誘つてみやうか次の時に

はさ何度も思つてみたが、しばらく我慢して待つ事に定めた。四月も終りに近づいた或時、遊戯をするといふ誰かの聲に、一番先に仕度をして大急ぎで部屋に入ったのがAだつた、しかし私は無理に知らない顔をしてゐた。やがてピアノの音が一しよに皆が立つた、そつこ様子を見てゐるAも立つてゐる。皆が見付けぬ中に、大急ぎでマーチをひいた。こんなにうれしい氣持で心配な氣持の交錯した事はなかつた。誰かAさんが一しよに歩いたなぎ云ひ出したらおしまひだ。種々お遊戯をしたが今迄しなかつた者さと思はれぬ程正確に上手にした。この日にはスキップのある遊戯はしなかつた。誰かAさんがお遊戯をしてゐる云ひましたが、席にかけ戻るかと思つたAは平氣でつゞけてゐたのでほつこ一安心。おしまひのスキップもやめておいた。次の時からは何の心配もなくすらく遊戯が出来たし、スキップにはなつてゐないがDもしつかり手をこつて元氣にスキップをする。遊びにもお仕事にもDはAを非常によく指導して何でも一しよにしてゐた。Dの方がすつこお兄様であるので非常に豫想以上の結果になつた。一ヶ月位経つた頃にはスキップも出来る様になつたし顔の色までも元氣にみちて來た。朝は一番早く、お早うございませすの聲も元氣一ぱいである。たゞ遊戯が出来たとい

から老いてから着よきて其儘御送り頂きました。私は泣けて泣けてしかたがありませんでした。此時既に御天壽をおささり遊ばしてゐらせられたのでせうか、今にして思へば、越えて本年二月十五日には、童話「梅子子供」の櫻子供」の御二作に添へて梅干飴を御送り下さいました。梅干飴を小包の中から発見しました時、私はほんさうに之はさかさ事だと思ひました。飴に至つては御老人の御口に會ふべく私よりこそ御送り申上ぐべきでありましたのにと思へば唯々勿體なくて、却つて早速には拜味いたす氣にもなれませんでした。四月七日には「摘み草」のお童話を御送り下さいました。今にして思へば日本に於ける幼稚園の先覺者としての御使命を最後迄御果しになつたもの、誠に尊く床しく存ぜられます。私は去五月中旬亡き母の一周忌法會に郷里へ歸りました節、氏原先生へきて出石焼の一輪イケを持つて歸りました。早速御送り申上げてと思ひましたが、何かお好きなお菓子でも添へてと思ひつゝ園の方が大變忙しかつたものですから延引してゐまして残念な事をいたしました。今はおよろこび頂く主もおはさず、純白の出石焼には折しも亡き恩師のみたまにさゞげよきてかたゞ一本、庭に咲ける白百合の花がいけられて御佛前にさみしくも床しく香つて居ります。四十餘年の永き年月を、母の様においつくしみ頂いた恩師氏原先生今はこの世におは

しまさず、いかにお慕ひ申上ぐとも最早再び御目にかゝるすべもなく、たゞ悲しさに泣き寂しさに涙いたすのみで御座います。

せめて亡き恩師の御人格を御遺稿を貴紙を通じて同じ道の爲めにお盡しの保姆様方に讀んで頂いて、このやる瀬なき思ひを癒やし度否御手向け的一端さいたし度拙きを顧みずこゝに筆をさりました。合掌(十三年六月二十八日記)

御影幼稚園長

(三〇頁より續く)

ふ事だけによりAの様子は總ての點がすつかり變つてしまつた。Dが誘へば誰の遊びの仲間入りも出来る様になつたし、製作等には大へんな興味を以て夢中になつてする様になつた。自信のある事にはごんな事にも手を出す様になつた。夏休み前には面白い遊びを自分で考案して皆を入れて遊ぶ様になつた。何か考へ出すさいつでも素晴らしいものが出来る。「Aさん入れてね」皆がAを求めて来る様になつた。皆の中に自分の存在をはつきり認められれば認められる程、Aはしつかりした歩き方をすゝめてゐる。一年前の事を時々思ふさ本當に嘘の様だ、よくもこんなに早くこゝまで来たものだといふ事を不思議に思つてゐる。